

Ⅱ 各教科

1 国語

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・ 授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答した生徒が低いもので92.8%、高いもので99.2%であった。また、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が77.8%であった。このことから、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考える。

イ 学力の状況

- ・ 「知識・技能」について
82%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。
中学校で新たに学習したこと（文法など）をそのときに理解することはできるが、小学校で学習した漢字を正しく書くことや以前に学習したことを別の学習時に活用することには課題がある。
- ・ 「思考・判断・表現」について
82.7%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。
自分の中でじっくり考えることはできるが、その自分の考えたことを伝え合うことや、共有したことをもとにさらに考えを深めたりすることに課題がある。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」について。
79%の生徒が十分満足できる・おおむね満足できる状況にある。
授業に対する姿勢や課題の提出状況もおおむね良好であるが、ノートに自分が考えたことを整理して後から見返せるように記述したり、学習の振り返りを充実させたりすることに課題がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した内容を反復学習することを通して、他の学習でも活用できるスキルにする。
- ・ 相互に考えを共有することを通して、自身の考えを広げたり深めたりする。
- ・ 学習の振り返りを通して、自身が身に付けた力や身に付けたい力を意識して、日々の学習に取り組む。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 単元で身に付ける力を毎時間目標を提示して生徒に意識させることで、どんな力を身に付けたのか具体的に分かるようにする。
- ・ 相互に考えを共有するツールとしてタブレット端末を活用することで、自分の考えを伝えるハードルを下げるとともに共有した内容を後から見直せるようにし、考えを広げたり深めたりしやすくする。
- ・ 1単位時間の目標と振り返りを一体化することで、身に付けた力と身に付けたい力を意識して目的をもって学習できるようにする。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・ 「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。

- ・ 「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 授業での学習内容に関連したワーク課題を出して、次時の授業時にチェックを行い、取り組みについて声掛けをする。

エ 授業の受け方

- ・ 毎時めあてと振り返りをノートに記述するか、学習者用端末を活用して記録に残し、学習の成果を確認させる。
- ・ 学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒が平均99%以上であったため、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。しかし、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が89%であったことから、興味・関心を上昇させることが課題である。

イ 学力の状況

- ・「主体的に学習に取り組む態度」について。
授業への取り組みはおおむね満足できる状況にある。
少し難易度の高い課題に対しても粘り強く取り組もうとする姿が見られる。
- ・「知識・技能」について。
授業で習得した知識・技能を定期考査前に復習し、定着を図っている。長期休みの課題を中心に、小学校で学ぶべき漢字について日常的に使えるようにするための課題を出しているが、まだ語彙が少なく、文章を読むことに苦手意識がある。
- ・「思考・判断・表現」について。
表現や判断に関しては、抵抗なくできる生徒が多い。反面、すぐに答えが出ないような解釈や精読に対して苦手意識がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身に付ける。また、話し合いを通して考えを深め、よりよい結論が出るような良質な質問をする力や、課題意識をもつこと、話の展開などを整理する力を磨く必要がある。
- ・文法や漢字など、習得した知識・技能を日常生活に生かす。
- ・他の生徒と考えを共有したり話し合ったりすることを通して、相互に考えを広げたり深めたりする。
- ・目的意識をもって日々の学習に取り組む、振り返りで成果と課題を明らかにし、次の学習につなげていくサイクルをつくる。

イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・生徒が授業だけでなく日々の生活に生かすイメージがもてるように授業展開を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、

- 上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、学習者用端末を活用して自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
 - ・「読むこと」について、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・ 単元の振り返りのワークシートを統一する。
- ・ ワークシートは UD デザインのフォントを使用するように留意する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 必要に応じてスタディサプリの該当ページを紹介し、補習学習を促す。
- ・ 小漢字テストを毎週行うことで、漢字の学習を習慣できるようにする。

エ 授業の受け方

- ・ 学習者用端末を活用して、生徒同士が学び合う機会を増やし、考えを深めさせる。
- ・ 単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・授業評価アンケートの回答では、授業内容に関する質問項目五つに対して「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」の肯定的な回答した生徒が平均 99%以上であったため、生徒にとっておおむね納得できる授業になっていると考えている。また、教科に対する興味・関心への肯定的な回答が87,3%であったことから、興味・関心を上昇させることが課題である。
- 、

イ 学力の状況

全国学力・学習状況調査から

- ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」の2領域ともに全国平均を上回っている。
- ・「知識・技能」では、全国平均よりも8ポイント以上高い。
- ・「思考・判断・表現」では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれも全国平均よりも5ポイント以上高い。
- ・無回答率が全国平均、都平均よりも低く、粘り強く取り組む姿勢も見られる。
- ・全体的におおむね満足できる状況である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・文法や漢字など、習得した知識・技能を日常生活に生かす。
- ・他の生徒と考えを共有したり話し合ったりすることを通して、相互に考えを広げたり深めたりする。
- ・目的意識をもって日々の学習に取り組み、振り返りで成果と課題を明らかにし、次の学習につなげていくサイクルをつくる。

イ 指導面（教師の課題）

- ・「知識・技能」を習得させるための分かりやすい説明と、「思考・判断・表現」力を発揮する適切な場の設定をする。
- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身に付けたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を増やす。
- ・生徒が授業だけでなく日々の生活に生かすイメージがもてるように授業展開を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、むやみに話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするためのスキルをきちんと教えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、自分の考えをまとめたり発表したりする活動を増やす。
- ・「読むこと」について、文学的文章でも説明的文章でも、学習者の体験を想起させることで、今までの経験を踏まえて自分の考えをまとめさせる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 1 単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・ 単元の振り返りのワークシートを統一する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 必要に応じてスタディサプリを使った補習学習を促す。
- ・ 小漢字テストを毎週行うことで、漢字の学習を習慣できるようにする。
- ・ 単元が終わった後には必ず、まとめの課題を提示し、学習のまとめを意識させる。